

事業所における自己評価結果

公表：令和4年3月25日

事業所名：スパークハウス上越ふじまき

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		兄弟で来所する場合、シェアによってはご遠慮していただく等に対応している
	②	職員の配置数は適切であるか	○		預かりを始めたことにより職員が足りない日がある。預かり個別の際の配置の考慮。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		事務室前のバリケードや給湯室前のゲートをすることにより、電話の受け取りが難しい。安全性の環境改善したい箇所がある。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		玩具の数を考慮し療育する。午前と午後消毒作業を行う。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		毎月会議を行っている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		イベント後アンケート調査を行い評価表の記入もお願いしている。行事計画の参考にしている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		毎年行っている。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げている		○	第三者とは関わってなく、行っていないため今後改善する。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○	コロナの影響によりオンライン等のものを探すが十分にできていない。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		モニタリング会議で保護者のニーズを確認し、支援計画を作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		独自の物を使用している。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		子どもに合わせた支援内容を設定している。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員間で情報交換を行う。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている		○	預かりではやっているが、個別では毎回できていないので課題とする。
	⑮	活動プログラムが固定化しないように工夫している	○		担当を日替わり体制にし多面的に発達を分析している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な支援の提供	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認している		○	必要な情報共有は行っているが、毎回必ずはできていない。
	⑱	支援終了後には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している		○	気付いたことや利用者の様子等の情報共有はしているが必ずはできていない。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		提供記録を実施し今後の支援に繋げている。
	⑳	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		アセスメントの見直しを行う。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		
	㉓	(医療ケアが必要な子どもの重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			
	㉔	(医療ケアが必要な子どもの重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		モニタリング会議を行い、相談員と仲介して行う。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		モニタリング会議を行い、相談員と仲介して行う。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		管理者は研修を受けているが、今後他事業所を見学したりと連携を図る。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		利用後毎回フィードバックを行い、療育終了後等で伝え合う。
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	相談員さんがすることであり当事業所の仕事内容でない。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	③② 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		
	③③ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	③④ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者の希望に応じて管理者が定期的に相談支援の場をつくる。
	③⑤ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		イベントの際に保護者交流の場を設ける。
	③⑥ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		スパークだよりやLINE、Instagram等のSNSでの情報発信を行っている。
	③⑧ 個人情報の取扱いに十分注意している	○		常に気を付けていきたい
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
非常時等の対応	④① 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		HPに記載できるよう準備している。保護者に周知はしていない。
	④② 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月行っている。
	④③ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者の方と情報共有を行いマニュアル作成をした。
	④④ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされている		○	保護者に確認し、保護者の指示に従っている。
	④⑤ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		月一回の会議で全体に共有している。
	④⑥ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○	
	④⑦ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	身体拘束は行っていない。